

**製品名: Csk ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09452**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CSK
別名	CSK; Tyrosine-protein kinase CSK; C-Src kinase; Protein-tyrosine kinase CYL
遺伝子 ID	1445.0
SwissProt ID	P41240
免疫原	抗血清はヒト CSK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 330-379

**背景**

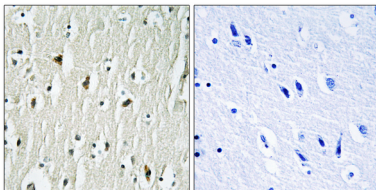
触媒活性:  $ATP + a \text{ [タンパク質]-L-チロシン} = ADP + a \text{ [タンパク質]-L-チロシンリン酸}$ 。機能: LCK 上の「Tyr-504」を特異的にリン酸化します。これは負の調節部位として機能します。LYN キナーゼおよび FYN キナーゼにも作用します。PTM: Tyr-304 の自己リ

ン酸化は、in vitro において CSK 濃度が異常に高い場合にのみ起こります。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。CSK サブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、類似性: 1つのSH2ドメインを含む。、類似性: 1つのSH3ドメインを含む。、細胞内局在: 主に細胞質内だが、脂質ラフトにも存在する。、サブユニット: PTPN8と相互作用する(類似性による)。リン酸化SIT1、PAG1、LIME1、TGFB11と相互作用する。、組織特異性: 肺およびマクロファージで発現する。、触媒活性:  $ATP + a[\text{タンパク質}]\text{-L-チロシン} = ADP + a[\text{タンパク質}]\text{-L-チロシンリン酸}$ 。、機能: LCK上の「Tyr-504」を特異的にリン酸化します。これは負の調節部位として機能します。LYNキナーゼおよびFYNキナーゼにも作用します。、PTM:チロシン304の自己リン酸化は、in vitro において CSK 濃度が異常に高い場合にのみ起こります。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンキナーゼファミリー。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンキナーゼファミリー。CSK サブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、類似性: 1つのSH2ドメインを含みます。、類似性: 1つのSH3ドメインを含みます。、細胞内局在: 主に細胞質ですが、脂質ラフトにも存在します。、サブユニット: PTPN8と相互作用します(類似性による)。リン酸化SIT1、PAG1、LIME1、およびTGFB11と相互作用します。、組織特異性: 肺およびマクロファージで発現します。、

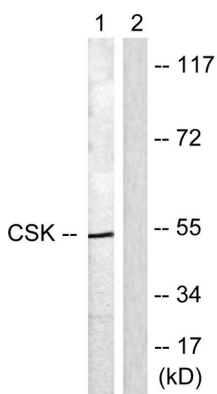
## 研究分野

ケモカイン、神経栄養因子、アクチンと細胞骨格の調節、ヘリコバクターピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達

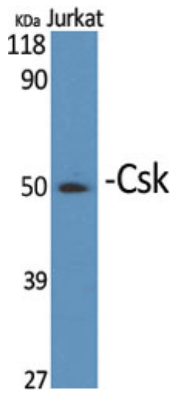
## 画像データ



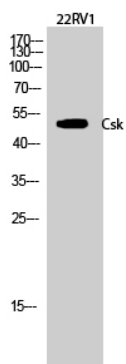
CSK抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



UV 5'処理したRaw264.7細胞のライセートをCSK抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



1: 1000 に希釈した Csk ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 1000 に希釈した Csk ポリクローナル抗体を用いた 22RV1 細胞のウェスタンブロット分析